大津百町瓦版

春　季　号［No．３９］
２０１９年　　４月

発行　大津の町家を考える会
大津市中央１丁目８－１３
TEL・FAX　077-527-3636
Email：otsu.machiya@gmail.com

大 津 ・ 町 家 ・ まちなか ・ いろいろ情報

高さ八Mもある大津石場港にあった常夜燈、江戸末期弘化二年（一八四五）に建てられました。

石場港は大津随一の港

この立派な「常夜燈」は現在びわ湖ホール横の湖岸寄りに建っていますが、元々は現在の大津警察署付近にあった江戸時代の船着き場・石場港の一角に建てられていたものだそうです。

過去、何度かの移転を余儀なくされ現在地に移ってきてなんとか元の姿を保っています。

この常夜燈をよく見てみると、基壇の部分に建設しようとした発起人の名前「鍵屋傳兵衛」や「舟持中」（いまで云う船主）が大きく刻まれ、さらに近在の江州の村々や在所の名前の他、個人の名前が無数に刻まれています。それらをじっくり見て読んで見ると、草津宿、石山濱、勢多濱、大萱、石部、日野、富川村、千野村、鳥居川、龍門村、そして旧大津湖岸にあった米蔵の名前も彫られています。さらには京三条宿、西洞院五条、大阪、尾州・名古屋方面の方々や工事を請け負った業者の名前も彫られているのです。

『矢橋の帰帆』として近江八景の一つにもなっている矢橋と石場の渡し舟は江戸末期大いに賑わいました。それはお伊勢参りや観音信仰が一般庶民に広まったことで旅する人々が増え、渡し舟も不足する状況だったそうです。

立派な石場の常夜燈はこうした時代の要請を受け、港を利用する舟事業者や庶民の多くの浄財によって建てられたのでした。

石場港の賑わっている様子は、四国・香川にある『金刀比羅宮』の奉納絵馬に荷を運ぶ舟や人々が乗り降りする様子等が描かれている事から良く分かります。その奉納絵馬にはこの大きな常夜燈も描かれています。絵馬は嘉永六年（一八五三）奉納されており絵馬の下方には奉納した人々ら三五人の名前が記されています。そこに少し大きめの文字で「高橋傳兵衛」と書かれており、常夜燈の基壇に発起人として彫られている「傳兵衛」氏と同一人物かと思われます。この様な歴史的建造物は当時の場所にあってこそ、その価値があるのではと思われます。

【会員　雨森】

行政からの支援があっても
町家を残すのは大変！

昨年末の毎日新聞に、中世から栄えた堺市の「環濠都市」の北部地区に多くの町家が残っているところで、この４年間に３００軒以上あった町家が一割以上も減ったそうです。地元の住民は行政に「町並みを守る取り組みを強化してほしい」と訴えているとありました。

堺市の環濠都市は室町時代から海外交易で栄え、大坂夏の陣で焼かれましたが、江戸時代に復興。先の大戦で空襲を免れたその北部地域は江戸初期の国内最古級の町家や古い家が多く残っていたそうです。堺市は2011年景観計画を作り、この地域を伝統的な町並みに合せて景観を整備する重点地域に指定して「修景」に補助金を出してきました。

こうした保存のための行政上の制度を設けて来たにも関わらず、現地が大阪市内へも近く住宅の建て替えニーズがあることやまた、昨年９月の大型台風による被害もあって老朽化した建物の所有者や子孫が建物を直して使い続けるのを敬遠される傾向があるようで、町家が四年間に一割以上減っているそうです。

さらに同地区に１１階建のマンション建設計画が出て来ることなどもあって、住民は景観悪化を懸念し、さらなる景観規制を求め「環濠北部の町なみを考える会」を結成しての運動も始まっているそうです。

※堺の活動については次号で詳細を予定しています。

「大津の町家を考える会」も訪問した
大阪・平野郷は

【 大阪・平野郷に残る町家 】

大阪市の平野地域に今から７年前の９月、「大津の町家を考える会」のメンバー１０人程が大阪市平野区で町並み再生を目指し活動している地域を訪問し、協議会を作り活動されている方々にお話を聞き町並みを見学するなど勉強してきました。

この地域は、歴史的に見ると堺に並ぶ自治組織があったところで、織田信長が当時栄えていた、大阪本願寺,堺、平野など主な都市に軍資金を課してきたとき、本願寺が同意しても、堺と共に強硬に反対し、一戦も辞さずと共同して戦おうことを決めたほど、強固な防護施設と自治・自律的精神持っていた町でした。

環濠集落の跡をとどめるお堀の一部も、地域内にある杭全神社に残っています。また先の大戦よる大阪空襲を免れたために現在まで古い町家・商家が多く残されている町です。

【 大念仏寺の屋根が高さ 22m 地区内建物はそれより低く 】

大阪市の支援のもとＨＯＰＥゾーン支援による、町家・商家の修復事業が徐々に進みだした 2004 年、この地域に高層マンション計画が持上ってきました。これを規制する条例も無いなかで、高層の建物が急激に町並みを変化させてしまうことに危機感を感じた平野郷ＨＯＰＥゾーン協議会は、専門家を招いて半年間勉強し、建物の高さ規制や用途についての地区計画を作成しました。さらに住民アンケートを実施し９９％の賛成を得て大阪市に地区計画の決定を要望。こうして平野郷地区の建物規制条例ゾーン期成(2007)が出来、“１００年後にも誇れるまちみんなが住みたいまち”を目指すまちなみ憲章「平野郷まちなみ作法五つの心得」が作成され、地域全体で町並みの再生と保存を活動のメーンにして、憲章に沿った活動が続けられています。

【 威勢のいいだんじり 】

大津でも使われている標語「祭ちょうちんが似合うまちなみ」はここで生まれました。ここ平野郷地区には貞観４年(862)創建という杭全神社があり、地区内９町自慢の「だんじり」があり夏７月には４日間に亘って地区内を走り回ります。

この平野郷地域では、戦災に遭わず大阪に残された一番大きな木造建築の「大念仏寺」があって、地域建築物の条例規制の基礎に(本堂の大屋根が 22mで条例規制の高さとなった)なったそうです。

大いに役立った修景補助制度

当時、大阪市はＨＯＰＥゾーン地区の修景補助金制度を設け、それが大きな支援となり地区内町家の修景に力を発揮しました。**その補助金は１．昭和１９年以前の伝統的建物　４５０万円　２．昭和２０年以降の建物　２５０万円　３．部分修景の場合１５０万円　として修景工事にかかる費用の３分の２が補助されたそうです。**

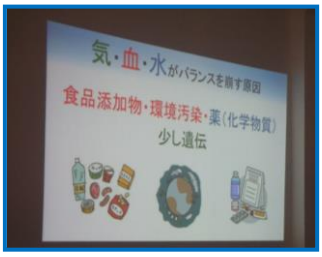
平野郷については２０１２年秋季号で訪問報告を掲載しました

萬　塾　第四回　12月 2日(日)　ヒントは一杯　健康＆長寿

昨年度最後の『萬塾』は１２月２日(日)「健康＆長寿」をメインテーマに、大津百町館のある丸屋町商店街で営業されているケイアイ薬品健康相談所の磯崎香さん。もう御一方は湖北余呉から長年中学校の理科教師の傍ら植物社会学、環境保全、環境教育に力を入れてこられ、退職後は微生物、マイクロバイオ、水槽から琵琶湖をみる等々の研究・講話をされている村上宣雄さんのお二人にお願いしました。

ケイアイ健康相談所　磯崎香さんのお話

磯崎さんのお話は血圧のお話から、薬に頼る健康法を考え直してみること、寒さの季節になると多くなる肩こりや神経痛、生理痛などまた、お腹が冷えると腸内環境が悪くなり免疫が低下して風邪を引きやすくなるなどの症状が起って、殆どの方は市販の薬により療法されています。しかし磯崎さんはこうした事への対処方法について、毎日の生活習慣を改めること、食養生による未病対策等によって元気は回復するとお話して頂きました。



村上宣雄さんのお話

100歳まで生きる長生きのコツは？

鍵は微生物と酵素

はじめは不思議な水槽の話、えさもやらない、ろ過装置もつけない、水槽の掃除もしない、水の交換もしない、それでも魚は１年以上生き続け、５年以上生息した記録もあるとのこと。この不思議な水槽とは、水草と微生物により水槽の中の不要なものが分解され、いつも綺麗になっているのだそうで、すでにあちこちの学校や講演会等でお話されているとか・・。すなわち水槽から琵琶湖が見えてくる。水槽＝琵琶湖を考えて見れば納得です。

また、私たちは人間の都合によって、草、昆虫、菌を、「雑草」「害虫」「病原菌」と呼んで排除しようとしているが、世界は微生物に囲まれていること。自然農法の素晴らしさを実践されてのお話、聞いていると当たり前のお話なんですが、この大切な循環を断ち切っており再認識が必要なことがよく分かりました。

「大津の町家を考える会」総会開催

「大津の町家を考える会」は２月３日(日)に２０１８年度の総会を開催しました。今年の総会には例年の総会に比べ出席者には新会員を含め、総会出席初めての会員もあって何時になく元気な雰囲気の総会となりました。

議事は新川議長のもと滞りなく進められました。事業活動報告、会計決算報告に続き今年度事業計画と予算の提案が行われ、質疑応答などの堅苦しいものではなく参加者の自由な意見等を出し合い総会を無事終えました。

百町館の利用は増え、ここ数年６千人～７千人が百町館に訪れて居られます。特に小学生の校外学習で訪れる子ども達も多く、一度来た子どもはその後家族を案内して来てくれる子どもも多いのです。

【 ２０１８年度総会の様子 】

今年度の『萬塾』予定

海道の町家をみて見よう

今年度の『萬塾』は「海道筋に残された町家をみて見よう」をテーマに、東海道は膳所城下町と唐橋等瀬田の町並、北国海道は下阪本・比叡辻を３回に分けて実施を計画予定しています。

大津にある海道については、道中の神社仏閣や名所地を案内しているものは多いですが、海道筋に並ぶ町家・町並みについての案内は少ないのが現状です。

実際にどんな、どれだけ町家があるのか・残っているのか？を考える会のメンバーも参加者も一緒にみて見たいと企画します。真夏を避け５～６月の実施を計画いたしますので、皆様の参加をお待ちしております。

大津から京都・大文字山へ

大文字山（如意ヶ岳）は寺門領

京都の大文字山は、何度か銀閣寺ウラから頂上を目指し登り、火床の右払いから法然院へ降りたことなどもありました。当時は大文字山を如意が岳と云い京都の山とばかりと思っていたのですが、そこが明治以前は三井寺の寺領であったとは知りませんでした。（現在は京都市左京区）

【 分り易い如意越えの標識 】

三井寺に保存されている古絵図には、鹿ケ谷から如意ヶ岳を経て三井寺までの大きな寺院伽藍が描かれています。現在の左京区、山科区、大津間の東山山中に如意寺本山跡、赤龍社跡、檜尾古寺跡、灰山庭園跡等々を含む遺跡や城郭跡がいまも残っており往時の存在を示しているのです。

如意寺は京都鹿ヶ谷から三井寺にかけて存在した山岳寺院で、三井寺の別院として、建物数７０近い壮大な伽藍が形成されていましたが応仁の乱以降の戦乱によって荒廃し遺跡のみが残っています。

ここは一部を除いて遺跡の大半が所在不明でしたが三井寺の古絵図と「如意寺図説」を頼りに 1965 年からの京都市文化財保護課の『京都市遺跡地図』改訂作業のなかで、絵図通りの広大な伽藍が山中に点在していることが判明したそうです。

昨年 10 月 25 日（木）、大津にある『ｏｈ！讃山クラブ』という山歩きの会が主催する「如意古道ハイク」に参加して旧三井寺の寺領を歩いて如意ヶ岳から大文字山へと初めて歩きました。

今回のコースは三井寺総門から坊越峠―長等山―灰山庭園―大阪航空管制所―如意ヶ岳―雨社―大文字山（火床）―千人塚―銀閣寺―最後は聖護院末寺の弥勒院まで歩きました。

【 山伏装束の三井寺、聖護院の僧侶 】

当日は三井寺総門前に参加者約５０人と三井寺と聖護院の僧侶７名も山伏装束にて参加されました。

総門からすぐの所に有る行者堂に僧侶ら参加者が集まり、出立の読経をして山内を歩きはじめました。幾つかの僧坊を見ながら坊越峠に到着。本格的な登りはここまでと言われましたが、先々山道は続きます。特に今回の登山は、９月にあった台風の影響で山中の倒木が多く、主催者の方々が事前にコースを歩いて倒木の伐採もされたそうですが、それでも難儀を極めました。

【 長等山からの西大津方面 】

三井寺の山号（長等山園城寺）となっている長等山に到着びわ湖の競艇場やＪＲ大津京駅がよく見えます。如意越えは稜線沿いにあって普通は歩きやすいのですが、９月の台風により特に国有林となっている京都側の桧林では倒木が激しく度々迂回を迫られました。

【 赤龍社跡の雨社大神で読経する僧侶 】

途中幾つかの跡地や千人塚では修験行者姿の僧侶による読経が行われ、銀閣寺を経て聖護院門跡の末寺の弥勒院に到着しました。弥勒院には大如来、不動明王、智証大師円珍像がお祀りしてあるところで、富士山の山開きの時にはこの弥勒院の行者さんが先達を務めておられるという話を初めて聞きました。

【 銀閣寺近く哲学の道沿いの弥勒院 】

【 雨 森 】

大津市歴史博物館に行こう

フェノロサの愛した寺

三井寺北院の名刹・法明院展　4月14日(日)まで

法明院は享保八年(1723)三井寺の北院に開かれ開山以降多くの学僧を輩出しました。その堂内には、近世文人画の巨匠と言われる池大雅や円山派の始祖である円山応挙、鶴沢派の三代目である鶴沢探索らの障壁画が沢山残されています。

また明治時代、アメリカから招聘を受け日本にやってきたアーネスト・Ｆ・フェノロサとウィリアム・Ｓ・ビゲローは当時の廃仏希釈の中で見向きもされない日本美術に傾倒し、多くの美術品を蒐集しました。二人は法明院の桜井敬徳和尚や直林寛良和尚らと親交を深め、たびたび法明院を訪れて滞在していました。

【 見事な鶴絵図 】

法明院には、二人が滞在中同寺で使用していたテーブルや地球儀、双眼鏡なども残されています。そのフェノロサがイギリスの地で亡くなる際に帰りたいと願った場所が法明院でした。そしてフェノロサの遺骨はシベリア鉄道で運ばれ、法明院には二人の墓が設けられました。

彼の集めた多くの美術品はボストン美術館の日本館に所蔵されています。数年前東京国立博物館をはじめ各地で、ボストン美術館所蔵の日本美術作品展が行われました。

観覧料は一般 ￥６００　高大生￥３００　小中￥２００

会期期間中フェノロサに関する講座が何回かあります。

詳細は大津市歴史博物館　TEL077-521-2100 まで

【 ﾌｪﾉﾛｻ､ﾋﾞｹﾞﾛｰが使っていた調度品と池大雅の襖絵 】

編集後記　２０１２年７月から年４回なんとか継続発行してきた『大津百町瓦版』ですが、今年度新年号はとうとう欠刊となってしまい読者の皆様にはご迷惑をお掛けいたしました。今春季号は幸い準備期間もあって発刊できました。ただ大津の町家の取材を予定していたお宅にうまく訪問出来なかったことは残念でなりません。　【 Ｋ．Ａ 】

漫画家が仏の世界を描きました

三井寺観音堂書院にて

３月29日～5月19日

漫画家による

仏の世界展

桜も満開の三井寺で、日本の多くの漫画家が描いた仏の世界展が三井寺観音堂横の書院で開催されます。

日本を代表する漫画家５０名以上の方々が描いた仏たちがなんと７０点も展示されるのです。

この企画展は東日本大震災後、多くの漫画家たちがいろいろな支援を続けてこられたなかで、公益財団法人日本漫画家協会の協力を得て立ち上げられたものです。 2014 年京都の東寺から始まり国内１３ヶ所と海外でも行われてきました。

今回の三井寺展はポーランドでの海外展からの帰国第１回目の国内展となります。

皆さんもよくご存知の漫画家による仏たちをじっくり見て頂けます。

トークショー＆サイン会

4月13日(土)14時～三井寺事務所2F

展示期間中の４月１３日(土)には漫画家によるトークショーとサイン会が同寺事務所２階にて行われます。

「漫画家による仏の世界展」は入場料金￥５００

※別途三井寺への入山料¥600 が必要です。

お得なペアチケット[仏の世界展+三井寺入山料]

￥１，０００

[週刊少年チャンピオン]に連載の『囚人リク』連載

大津在住の漫画家瀬口忍の原画展

この「仏の世界展」開催期間中、同じ三井寺の金堂で大津在住の人気漫画家である瀬口忍氏の作品原画展示も行っています。**こちらは入山料のみ**

4 月 20 日(土)には三井寺事務所２Ｆにて 10 時ライブペイント　13 時サイン会も行われます。

『大津の町家を考える会』に入会されませんか？

夏バージョンのまちづくり『大津百町館』

「大津の町家を考える会」は大津に残る町家の存在を広く認識し、社会にアピールシ、その活用や保存を提案するとともに、町の活性化及び心地よいまちづくりを行うことを目的に１９９７年７月に結成されました。

主な事業は①町並みの保存を含めたまちづくりの企画、提案及び実践。②まちづくり「大津百町館」の管理運営。③町家の保存、活用。④セミナー、シンポジュウムの開催。⑤他地域とのネットワークの構築や情報交換。⑥機関誌の発行。⑦その他本会の目的を達成するために必要なこと。

「大津の町家を考える会」の趣旨に賛同される方、「まちづくり『大津百町館』」での活動に　興味ある方、ぜひ「大津の町家を考える会」に入会ください。

入会金不要、年会費￥３、０００ 入会申込みはFAXかメールで

入　会　申　込　書

氏　名　　男　女

〒　　―

住　所

電話番号(自宅・携帯)

E―ｍａｉｌ

「大津の町家を考える会」　〒５２０－００４３　大津市　中央１丁目８－１３
ＴＥＬ・ＦＡＸ　０７７－５２７－３６３６
Ｅ－ｍａｉｌ　：　ｏｔｓｕ．ｍａｃｈｉｙａ@ｇｍａｉｌ．ｃｏｍ